

生物多様性

多くの人々は、国立公園を木や花、川などを見ながら散策する平穏な場所と考えています。実は、日本の国立公園システムは生物多様性の保全や絶滅危惧種の保護に欠くことのできない役割を果たしています。この地に暮らす動物のなかで、比較的自然の脅威からは守られていると思われがちな動物の 1 つにエゾヒグマ (*Ursus arctos lasiotus*) があります。非常に大きな種で、一部はアラスカのコディアックヒグマほどの大きさに成長します。以前は北海道の大地を自由に放浪したエゾヒグマですが、彼らの生息地は人間の流入と同時に確実に縮小してしまいました。石狩地方の西部では、エゾヒグマはすでに絶滅危惧種と考えられており、他の地域もこれに続くかもしれません。幸いにもこの国立公園は彼らの生息地の大部分をカバーしており、できるだけ多くの生息地を保全しようと努力しています。

同じくこの地の住人であるエゾシカは、正反対の問題を抱えています。エゾシカは農業と林業の両方にとって害となるほどにまで増えてしまい、交通事故を引き起こし、公園内の植生に被害を与えています。エゾシカの増加に対応すべく、北海道政府は戦略的管理計画を策定することになりました。

この国立公園はまた、様々な種類の鳥が見られることでも知られています。もちろん、北海道の冬は厳しいので、羽のある住人の大部分は夏の鳥です。公園内には数種類のキツツキ、シジュウカラ、ハシブトガラ、エゾライチョウ、クロツグミ、アカハラ、キビタキ、ウグイス、アオジ、ツツドリが暮らしています。夏になると彼らの会話を聞くことができ、そのさえずりは最もうっそうとした森をも生き生きとさせます。

支笏洞爺国立公園が誇る見事な生物多様性はこの公園の欠かせない魅力の 1 つであり、また、公園内に生息する動植物の保護は、公園の使命の大切な一部であり続けるのです。